

森林
の
あ
る
や
す
ら
ぎ

自然の力で自然災害から守ります。

かぶと の

兜野地区防災林



国民の森林・国有林

林野庁
北海道森林管理局
渡島森林管理署

兜野地区防災林のようす

■ 柏林

天然砂丘の後方には、マツだけではなくカンフの林も共生。針葉樹と広葉樹の特性を効果的に生かすことで砂丘全体の防災力を向上。これ以上の荒廃地の広がりを防ぎ、緑の空間を広げています。



■ 静砂垣

植樹した苗木が地面にしっかり根を張り育つまで風や波から守るもの。苗木が自立できるようになったら、この垣は撤去します。風や波の影響を受けやすい天然砂丘の前面に設置しています。

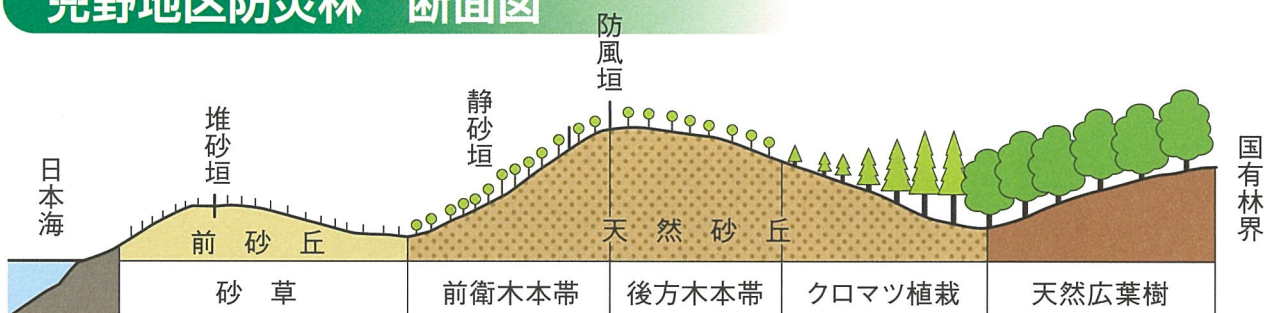


兜野共和地区海岸防災林造成事業

この地区の国有林では、飛砂や津波等の害から町や村を守るため樹木の植栽等の工事を行っています。

 渡島森林管理署

兜野地区防災林 断面図



■植林松

垣根に守られ成長したクロマツの林。生命力の強い針葉樹を整備することで、後方に広がる天然広葉樹を風から守ります。このように自然の力を生かした植樹で、確かな形で緑の森を育てています。



■防風垣

風による砂の流失を防ぎ、砂丘の現状を保持する、堤防のような役割を果たしています。主に静砂垣の後方の斜面に整備しています。

兎野・共和地区治山事業一覧

(工事費単位：万円)

種 類	工 事 内 容	数 量	工 事 費
植 栽 工	新 規 植 栽	21.4ha	4,224
	保 育	277.4ha	
	施 肥・客 土	10.1ha	
覆 砂 工	覆 砂 工	3.9ha	229
	砂 草 植 栽	0.6ha	
防 風 工	防 風 柵	1,276 基	15,146
	防 風 垣	79.619m	
堆 砂 工	堆 砂 垣	26.147m	425
静 砂 工	静 砂 垣	9.4ha	2,816
砂 丘 造 成	砂 丘 造 成	960m	1,429
管 理 車 道	新 設・修 理	3,700m	2,604
歩 道	新 設・修 理	7,800m	34
そ の 他	施 設 修 理 等 標 識 整 備 等	一 式	3,077
合 計			29,984

(平成 21 年度末現在)

飛砂防備保安林

設置 昭和三十二年五月一日



この保安林は海岸の飛砂防止のために設けられた市民の貴重な財産です。樹木をいっわり刈取して大切に保存しましょう。また、防風柵・静砂垣・砂丘造成工事など、この保安林に支障を及ぼすような行為は厳禁です。

兜野地区防災林の変貌

HISTORY



明治末期

一帯に広がっていた原生林は、薪炭材として伐採。広葉樹低木と草本類がわずかに残るだけの荒廃砂地となっていました。

大正時代

大正10年に土砂かん止林に編入(その後、土砂崩壊防備林、飛砂防備保安林と名称変更)。海からの強風による森林の後退で、後背地域に大きな被害が出るようになりました。

昭和20年～昭和40年代

昭和25年に被害防止の計画が立案。昭和26年度から同45年度まで、堆砂垣・静砂垣・防風垣の設置、耐砂性草本の植栽などの本格的な海岸防災林造成事業が行われました。

昭和45年～

昭和44年に「防災林全体計画」及び昭和45年度を始期とする「治山事業長期計画」を作成。既設工作物の補修と不成績造林地への補植に重点をおき事業が進められました。

現在今後について

緑への社会的要請を考慮しながら、残された荒廃地の安定や事業箇所への手入れに努めると共に、住民参加による森林造成の場としても活用を図っていきます。

※写真はイメージです。

森林の活用

APPLICATION



兜野地区では、地域の教育機関と連携した森林教室なども開催。緑と親しみながら森林の大切な役割などを伝えています。

代表的な砂草植物・花類



シロヨモギ



ハマボウフウ



ハマヒルガオ



ハマニンニク



ハマナスの花



ハマエンドウ



